

＜高森台中学校区・石尾台中学校区＞
学校統合に向けた意見交換会 議事録

1 開催日時

令和8年6月14日（日）午前10時～午後0時20分

2 開催場所

グループふじとう（高蔵寺まなびと交流センター） 体育館

3 参加者数 35名

【事務局】

春日井市教育委員会	部長	森本 邦博
学校教育課 新たな学校づくり推進室	室長	梶田 傑
〃	室長補佐	深見 健司
〃	主査	安田 和志
〃	主事	杉山 太一
〃	指導主事	田中 秀治

4 内容

- (1) 学校統合に向けた検討について説明・意見交換
- (2) 参加者どうしによる意見交換

5 会議資料

＜高森台中学校区・石尾台中学校区＞学校統合に向けた検討について

午前 10 時 開会

1 開会

【教育部長あいさつ】

日頃より市政にご理解とご協力をいただき、御礼申し上げます。

令和 7 年度に実施された国勢調査の速報値が発表されました。その速報値によると、愛知県の人口は 744 万 9,403 人であり、5 年前と比較し 9 万 3,012 人減少しました。国勢調査で愛知県の人口が減少するのは、戦後初めてのことです。また、国勢調査における春日井市の人口は、平成 22 年では 30 万 5,569 人、平成 27 年は 30 万 6,508 人、令和 2 年は 30 万 8,681 人と増加を続けてきましたが、令和 7 年の速報値は 30 万 3,120 人となり、令和 2 年と比較すると 5,561 人減少しています。今後も引き続き減少傾向が続いていくと考えています。

こうした中、教育委員会では小中学校の適正規模や適正配置について検討を進めています。子どもたちが一定の集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けるためには、一定の規模の集団が必要であると考えています。子どもたちがたくさんの友達や先生に出会い、人間関係の幅が広がるように、少なくとも 1 学年に 2 学級以上あり、クラス替えができる規模であることが大事であると考えています。

高蔵寺ニュータウン地区においては、将来、全ての学校が過小規模または小規模になることが推定されますので、市内においても最優先で検討に取り組んでいます。今後、より具体的な検討を進めていくために、本日は基本方針（案）をお示しします。将来を見据えて、今後の学校をどうしていくかということは、とても難しい課題であると捉えています。本日は参加者どうしで意見を交換していただく時間を設けております。他の方がどのような意見を持っているか知る良いきっかけにもなると考えています。子どもたちにとってどのような教育環境が必要なのかということをご一緒に考えていきたいと思ひます。

本日は実りある意見交換会となりますようにご期待申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

2 学校統合に向けた検討について説明・意見交換

(1) 説明

【事務局】

I 小中学校の適正規模等の取組について（資料 1 ～ 4 ページ）

- ・子どもたちの数の減少により、今後、標準的な規模を下回る学校が増えていくことが想定される中、子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、互いに認め合い、協力し合いながら成長し、社会性を身に付けていくためには、一定の学校規模を確保することが望ましいと考えている。将来を見据え、子どもたちにとってより良い教育環境を実現するために、学校の適正規模や適正配置について検討を進めている。
- ・本市では、令和7年2月に「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」を策定した。その中で、国の基準を参考に、規模が小さい学校について、クラス替えができるかどうかの視点から学校規模の区分を設けた。学級数の基準については、1学級あたりの児童生徒数を小学1年生から中学2年生までは35人、中学3年生は40人としている。なお、中学校について、愛知県では3年生が令和9年度以降、40人学級から35人学級へ移行することとされており、令和9年度からは1学級35人で推計している。
- ・本市は、全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数の教員を配置するためには、小学校、中学校ともに1学年に2学級以上あることが必要であると考えている。そこで、どの学年もクラス替えができない「過小規模校」や、一部の学年でクラス替えができない「小規模校」について、過小規模校を優先に、通学区域の変更や学校の統合などにより、適正規模の確保に努めるように検討することとしている。
- ・中学校区で見た場合に、将来すべての小学校が「過小規模校」又は「小規模校」になると推定される、坂下、藤山台、高森台、石尾台、岩成台の5つの中学校区にある学校を最優先に検討を進めている。
- ・これまでの取組として、対象の中学校区においてアンケートを実施し、その後、対象の中学校区ごとに2回の意見交換会を開催した。また、高森台中学校区では3回、石尾台中学校区では4回の意見交換会を開催した。

Ⅱ 児童生徒数推計について（資料5～12ページ）

- ・前回まで使用していた資料から算出方法を変更している。推計の基準になる年度を令和7年度から令和8年度に変更し、中学校では令和20年度まで、小学校では令和14年度までは、令和8年度の0歳から5歳の子の実際の人口に基づき推計している。令和22年度の推計値については、前回までの資料では市が将来の人口動向を推計した「人口ビジョン」から推計していたが、直近の児童生徒数の状況を反映させるために、中学校は令和8年度から令和20年度まで、小学校は令和8年度から令和14年度までの児童生徒数推計の推移に基づき、将来も同様な増減の傾向があると想定して推計している。
- ・高森台中学校区の各学校の「児童生徒数」と「学級数」の現状と今後の推計について、高森台中学校は、令和8年度、生徒数253人、8学級で、学校規模は、小規模

だが全学年でクラス替えができる「やや小規模」である。今後は、生徒数及び学級数ともに減少するが、学校規模は「やや小規模」で推移すると推定される。

- ・高森台小学校は、令和 8 年度、児童数 225 人、11 学級で、学校規模は「小規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 22 年度では、全学年でクラス替えができない「過小規模」であると推定される。
 - ・中央台小学校は、令和 8 年度、児童数 154 人、6 学級で、学校規模は「過小規模」である。今後、児童数はさらに減少し、「過小規模」のまま推移すると推定される。
 - ・東高森台小学校は、令和 8 年度、児童数 118 人、6 学級で、学校規模は「過小規模」である。今後、児童数はさらに減少し、「過小規模」のまま推移すると推定される。
 - ・仮に高森台小学校、中央台小学校、東高森台小学校の 3 校を統合した場合の合計は、令和 14 年度では、児童数 392 人、14 学級で、学校規模は「適正規模」、令和 22 年度では、児童数 307 人、12 学級で「適正規模」と推定される。高森台中学校区は、令和 22 年度では中学校、小学校ともにクラス替えができる学校規模である。
 - ・石尾台中学校区の各学校の推計について、石尾台中学校は、令和 8 年度、生徒数 321 人、10 学級で、学校規模は「やや小規模」である。今後、生徒数及び学級数ともに減少するが、学校規模は「やや小規模」で推移すると推定される。
 - ・玉川小学校は、令和 8 年度、児童数 170 人、7 学級で、学校規模は「小規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 9 年度から「過小規模」となると推定される。
 - ・石尾台小学校は、令和 8 年度、児童数 157 人、6 学級で、学校規模は「過小規模」である。今後、児童数はさらに減少し、「過小規模」のまま推移すると推定される。
 - ・押沢台小学校は、令和 8 年度、児童数 176 人、8 学級で、学校規模は「小規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 13 年度から「過小規模」となると推定される。
 - ・仮に玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校の 3 校を統合した場合の合計は、令和 14 年度では、児童数 316 人、12 学級で学校規模は「適正規模」、令和 22 年度では、児童数 174 人、6 学級で「過小規模」と推定される。
- 玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校の 3 校を統合したとしても、令和 22 年度では適正規模の課題が解決しないこととなる。

Ⅲ アンケート結果について（資料 13～14 ページ）

- ・高森台中学校区について、「1 学年に 2 学級以上となるように、学校の適正な規模や配置に市が取り組むことについて」の質問では、「ぜひ進めるべき」又は「進める方がよい」と回答された「賛成」の方の割合は、高森台小学校、中央台小学校、東高森台小学校の 3 校を合計した小学校「全体」の保護者では 51.6%となっている。

地域の方も小学校単位で集計しており、地域の方は 73.4%の方が賛成と回答している。また、高森台中学校の保護者は、54.9%の方が賛成と回答している。

「進めない方がよい」又は「進めるべきではない」と回答された「反対」の方は、小学校全体の保護者で 16.4%、地域の方は 12.8%、高森台中学校の保護者で 9.0%となっている。反対の理由として、保護者の方は、小学校、中学校ともに「登下校の時間や方法」を心配する方が多く、地域の方は「環境変化による子どもたちへの影響があるから」と多くの方が心配している。

- ・石尾台中学校区について、「1 学年に 2 学級以上となるように、学校の適正な規模や配置に市が取り組むことについて」の質問では、「賛成」の方の割合は、玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校の 3 校を合計した小学校「全体」の保護者では 54.7%となっている。地域の方は 64.6%の方が賛成と回答している。また、石尾台中学校の保護者は、60.0%の方が賛成と回答している。

「反対」の方は、小学校全体の保護者で 18.2%、地域の方で 24.4%、石尾台中学校の保護者で 12.5%となっている。反対の理由として、保護者の方は、小学校、中学校ともに「登下校の時間や方法」を心配する方が多く、地域の方は「環境変化による子どもたちへの影響があるから」や「地域と学校の関係が希薄になるから」と多くの方が心配している。

IV 意見交換会でのご質問・ご意見について（資料 15～27 ページ）

- ・第 1 回意見交換会は、各小中学校で開催した。
- ・高森台中学校区の第 1 回意見交換会について、高森台中学校での意見交換会は 10 月 22 日に開催し、参加者は 12 人であった。高森台中学校での質問は「児童生徒数推計について」や「スケジュールについて」など、合計 8 件あった。
高森台小学校は 10 月 14 日に開催し、参加者は 19 人であった。高森台小学校での質問は「通学バスについて」や「魅力ある学校づくりについて」など、合計 19 件あった。
中央台小学校は 10 月 23 日に開催し、参加者は 24 人であった。中央台小学校での質問は「統合に関することについて」や「通学について」など、合計 23 件あった。
東高森台小学校は 9 月 25 日に開催し、参加者は 21 人であった。東高森台小学校での質問は「統合に関することについて」や「児童生徒数推計について」など、合計 24 件あった。
- ・石尾台中学校区の第 1 回意見交換会について、石尾台中学校では 10 月 17 日に開催し、参加者は 14 人であった。石尾台中学校での質問は「統合に関することについて」や「児童生徒数推計について」など、合計 10 件あった。
玉川小学校は 10 月 9 日に開催し、参加者は 22 人であった。玉川小学校での質問は「通学バスについて」や「統合に関することについて」など、合計 17 件あった。

石尾台小学校は10月6日に開催し、参加者は22人であった。石尾台小学校での質問は「統合に関することについて」や「通学について」など、合計17件あった。押沢台小学校は10月7日に開催し、参加者は30人であった。押沢台小学校での質問は、「魅力ある学校づくりについて」や「統合に関することについて」など、合計28件あった。

- ・第2回意見交換会は、各中学校区全体で開催した。
- ・高森台中学校区の第2回意見交換会は12月7日に開催し、参加者は31人であった。高森台中学校区での質問は、「通学について」や「ニュータウン地区のまちづくりについて」、「今後の具体的な検討の進め方について」など、合計29件あった。
- ・石尾台中学校区の第2回意見交換会は12月20日に開催し、参加者は41人であった。石尾台中学校区での質問は、「アンケートについて」や「ニュータウン地区の現状について」、「通学区域の変更について」など、合計19件あった。
- ・石尾台中学校区では、保護者を対象に第3回意見交換会を開催した。第3回意見交換会は2月11日に開催し、参加者は12人であった。質問は、「今後の具体的な検討の進め方について」、「アンケートについて」、「意見交換会について」など、合計16件あった。
- ・高森台中学校区では、中学校区全体で第3回意見交換会を開催した。第3回意見交換会は4月25日に開催し、参加者は7人であった。会の前半では、「高森台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように隣接する中学校区の小中学校との学校統合に向けて検討を進める。隣接する中学校区として、石尾台中学校区を対象とする。」という市の考え方を示し、意見交換を行った。質問は7件あり、通学距離の基準の確認や通学方法の検討の必要性など、通学についての意見の他に、統合する場合の進め方の確認や統合による地域への影響を心配する意見もあった。会の後半では、3人から4人で一つのグループになり、参加者どうしによる意見交換を行った。意見交換は自由参加で行い、参加者数は7人だった。意見交換のテーマは、「統合に関する市の考え方について」で行った。

主な意見を紹介する。

「統合に関すること」として、「統合することにより、授業や部活動などの子どもたちの活動の幅が広がる。」、「統合を機会に地域の方と協力して新しい学校運営をつくっていききたい。」などの意見があった。

「通学に関すること」として、「通学時の熱中症が心配。」や「通学時間が重要。」といった意見があった。

「その他」として、「多様性に富む施設をつくってほしい。」や「避難所として活用する体育館は残してほしい。」といった意見があった。

- ・石尾台中学校区では、中学校区全体で第4回意見交換会を開催した。第4回意見交換会は4月25日に開催し、参加者は19人であった。会の前半では、「石尾台中学

校区の小中学校が適正な規模や配置となるように隣接する中学校区の小中学校との学校統合に向けて検討を進める。隣接する中学校区として、高森台中学校区を対象とする。」という市の考え方を示し、意見交換を行った。質問は7件あり、統合を考えるにあたっての優先順序や今後の検討の進め方についての意見があった。また、ニュータウン地区のまちづくりへの影響を心配する意見や、玉川小学校区の特性も考えて検討してほしいという意見もあった。

会の後半では、4人から5人で一つのグループになり、参加者どうしによる意見交換を行った。意見交換は自由参加で行い、参加者数は17人だった。意見交換のテーマは、「統合に関する市の考え方について」で行った。

主な意見を紹介する。

「統合に関すること」として、「小学生から様々な人と関わることが大事だと思う。」や「統合の検討を進めるために、市の方針を具体的に示してほしい。」などの意見があった。

「通学に関すること」として、「通学区域が広がると小学生は体力面で不安がある。」や「通学バスを利用するのであれば、貸し切りバスを用意してほしい。」などの意見があった。

「まちづくりに関すること」として、「小学校で開催している地域のお祭りやイベントがどうなるかわからない。」や「防災や福祉の観点など、ニュータウンのまちづくり全体で考える必要がある。」などの意見があった。

「その他」として、「先生の負担を考えて、1学年に複数の先生がいる環境が必要。」や「自分の地区の学校は残したいと多くの人が思っている。市の進め方は不安。」などの意見があった。

V 学校統合に向けた基本方針の策定について（資料 28 ページ）

- ・本市は平成 28 年に高蔵寺リ・ニュータウン計画を策定し、住民や関係団体と連携しながら様々なプロジェクトを進めてきた。また、高蔵寺ニュータウン地区は地縁団体や市民団体が活発な活動を展開しており、地域主体のイベントが多く開催されるなど、地域のつながりが強い地区だと認識している。
- ・こうしたことから、学校統合に向けた基本方針については、高蔵寺ニュータウン地区全体で策定することとする。

VI 高蔵寺ニュータウン地区における基本方針（案）について（資料 29～32 ページ）

- ・高蔵寺ニュータウン地区における基本方針（案）について、3つの方針を示す。
- ・方針1は、「高蔵寺ニュータウン地区を2つの地区に分け、それぞれの地区で最適な学校統合のあり方を検討します。」とする。2つの地区は、「藤山台中学校区・岩

成台中学校区」と「高森台中学校区・石尾台中学校区」とする。それぞれの中学校区にある中学校と小学校を検討の対象とする。

- ・高森台中学校区と石尾台中学校区について、令和 22 年度の児童生徒数推計では、高森台中学校区は高森台中学校と中学校区内の小学校の 3 校を統合した場合の小学校ともに、複数クラスを維持することができると推定される。しかし、石尾台中学校区は、中学校区内の小学校の 3 校を統合したとしても、令和 22 年度ではクラス替えのできない学年があると推定されることから、他の中学校区との学校統合を検討する必要がある。高森台中学校区と石尾台中学校区の今後の児童生徒数推計を注視しながら、最適なあり方を検討していきたいと考えている。

① 地区分けの考え方については、次のような地域のつながりを踏まえ、2つの地区に分けることとする。

- ・それぞれの中学校間の距離が最も近い組合せであること。
- ・藤山台ブロックと岩成台ブロックでは P T A 活動の一部を共同で実施していること。
- ・民生委員・児童委員の活動では、「藤山台・岩成台中学校区」と「高森台・石尾台中学校区」の 2 つの地区で民生委員児童委員協議会を開催し、情報共有が行われていること。

② 検討にあたっては、登下校について、必要に応じてバスの利用などの通学手段を検討する。

- ・方針 2 は、「新しい学校が魅力ある学校となるように検討を進めます。」とする。

① 小中一貫教育や特色あるカリキュラムの導入など、子どもたちにとって、また地域にとって、魅力ある学校となるように検討する。

② 学校と地域との連携や協働の取組を取り入れ、地域ならではの創意工夫を活かした魅力ある学校づくりを検討する。

③ 地域の方が利用することができるコミュニティスペースの設置など、地域の拠点としての学校づくりを検討する。

- ・方針 3 は、「保護者や地域の方、学校関係者と連携しながら、丁寧に検討を進めます。」とする。

① 保護者や地域の方、学校関係者の意向を尊重しながら、意見交換会などを通じてしっかりと議論を積み重ね、十分な理解や協力を得ながら検討を進める。

② 保護者や地域の方に、検討状況や意見交換の内容などの情報を積極的に発信する。

- ・参考として、藤山台中学校区と岩成台中学校区の児童生徒数推計の合計について、両中学校区の推計は令和 7 年度基準のものではあるが、藤山台中学校と岩成台中学校の合計では、令和 13 年度まで「適正規模」で推移すると推定されるが、令和 14 年度には「やや小規模」になると推定される。

藤山台小学校、岩成台小学校、岩成台西小学校の合計では、令和 22 年度においても「適正規模」を維持すると推定される。

- ・参考として、高森台中学校区と石尾台中学校区の児童生徒数推計の合計について、高森台中学校と石尾台中学校の合計では、令和 16 年度まで「適正規模」で推移すると推定されるが、令和 17 年度には「やや小規模」になると推定される。
高森台小学校、中央台小学校、東高森台小学校、玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校の合計では、令和 22 年度においても「適正規模」を維持すると推定される。

VII 今後の進め方（資料 33 ページ）

- ・高蔵寺ニュータウン地区の学校統合に向けた基本方針の策定後、「藤山台・岩成台中学校区」と「高森台・石尾台中学校区」の 2 つの地区において、それぞれの保護者や地域の代表の方、学校関係者などで構成する「学校づくりを考える懇談会」を組織し、統合の必要性を含め、より具体的な内容について意見交換を行う。
- ・懇談会での意見交換を踏まえ、それぞれの地区の保護者や地域の方を対象に意見交換会を開催する。
- ・その後、学校を統合することとした場合は、統合に向けた計画を策定していく。計画では、統合のための具体的な方策やスケジュールなどを示す。
- ・「藤山台・岩成台中学校区」と「高森台・石尾台中学校区」でそれぞれ検討を進めていく中で、進行状況に違いが生じた場合、統合に向けた計画をそれぞれの地区で策定することを検討する。

(2) 意見交換

【質問 1】（東高森台小学校区）

以前、意見交換会で「教育委員会だけではなく、他の部署と連携して検討を進めてほしい。」という意見を出したが、資料に掲載されていなかった。

どの中学校区の意見交換会でも魅力ある学校についてたくさん意見が出ていたが、教育委員会だけではできないと思う。他の部署と協力し、1 つのチームとして進めていくことが必要だと思うが連携できているのか。

魅力ある学校について、他市では無料の学習塾のようなものの導入や留学するプロジェクトを導入するなどを実施して、全国からたくさんの人が押し寄せているところがある。高蔵寺ニュータウン地区でも施策を講じれば、人口減少を遅らせることができると思う。そのためにも、地域に開かれた学校教育が必要であると思うが、今はどのくらい進んでいるのか。

【事務局】

教育委員会以外の別部署とも情報共有しています。また、まちづくりの視点での資料作成についても、今後検討していきたいと考えています。

魅力ある学校づくりについては、昨年度、先進校を視察するなどしています。今後検討を進めるにあたり、一つの考え方として、学校跡地を魅力あるものとして活用することも考えられます。また、高森台中学校では、先進的な授業を行っており、学校関係者、教育関係者など全国から多くの先生が視察にきています。多くの方に公開しており、開かれた学校として地域にとって誇れる学校だと考えます。

【質問2】（東高森台小学校区）

最初の意見交換会から「検討する」だけで終わっている。そもそも他部署と連携する気はあるのか。まちづくりについて、権限がない人たちが集まって話し合いをしても何も意味がない。学校は地域に開かれたものとなってほしい。

【事務局】

現在、ニュータウン創生課では、高蔵寺ニュータウンのまちづくりについて、これまでの「高蔵寺リ・ニュータウン計画」から「ニュータウン構想」というものにステップを変えていこうという動きがあります。「高蔵寺リ・ニュータウン計画」の総括をしながら、春日井市と高蔵寺ニュータウンセンター開発株式会社、UR都市機構で協定を結び、取組を進めているところです。今後、ニュータウン地区での取組については、引き続き担当課と情報共有をしながら進めていきたいと考えています。

【質問3】（中央台小学校区）

資料を見て、一番の感想は全く危機感がないということ。児童生徒数推計の部分でしか危機感を感じることができなかった。教育委員会が一生懸命やらないといけないと思っているのはわかるが、産学官連携など自分たちだけでできないところはどこかに協力を要請しないといけないのではないか。そういう取組を実施しているのか聞きたい。

また、私は高蔵寺ニュータウンを終わらせるべきだと思っている。子どもが少なくなり地区の高齢化が進んでいる。市に高蔵寺ニュータウンの危機感をしっかり伝える必要があると考えている。

【事務局】

これまでの意見交換会でも地域の方からは、子どもの数が減っているというのわかるけれども、地域のまちづくりや、高蔵寺ニュータウン地区全体として人口が減少している現状についても対応すべきというご意見をよくいただきました。今後

の資料づくりも含めて、ニュータウン創生課と連携して対応していきたいと考えています。

産学官連携については、現状連携はしていませんが、今後統合の話の方向次第で他機関との連携も必要になってくるのではないかと考えています。

また、多くの皆様から意見交換会などを通じて質問や提案を聞かせていただいていますので、危機感をもって取組み、いただいたご意見を今後の進め方や方針に反映したいと考えています。

【質問 4】（中央台小学校区）

学校統合の取組を進める根拠として、令和 22 年度の児童生徒数推計の状況を使用するということでしょうか。

【事務局】

学校統合に関する取組については、未来の状況を踏まえ検討を進める必要があります。推計値を参考にするという意味で、約 15 年後の令和 22 年度の数値を掲載しています。

【質問 5】（中央台小学校区）（意見）

要望になるが、学校統合の話とまちづくりの話は重なる部分があると思う。ただ、本日説明しているのは教育委員会の職員なので、まちづくりの話をしてもなかなか意見がかみ合わないと思う。もし可能であれば、次回この場にニュータウン創生課の職員も同席してもらえば、より有意義な意見交換ができると思う。

【質問 6】（押沢台小学校区）

子どもの数が減ったから統合という前提で話が進んでいくと思うが、地域に学校がなくなると、引っ越しする人が増える、または引っ越してくる人がいなくなると思う。そしてさらに子どもが減るといったデススパイラルとなる。統合以外にも視野を広げて住みやすいまちについて考えてほしい。

また、高蔵寺ニュータウン地区だけではなく、春日井市全体の状況を示し、その中でこの地域の問題がどのように突出しているのか、あるいは危機感を持たないといけないのか、それがわかるような資料を作成してほしい。

【事務局】

取組の一番の目的は、子どもたちのより良い教育環境を整備することです。子どもの数が減って、クラス替えができないことや、子どもの社会性の育成という課題を解決するために、統合という形になるかわかりませんが教育環境の整備に取り組む必要があると考えています。また、学校の施設の面においても、現在の高蔵寺ニュータウン地区にある小中学校の数は、この地区の子どもが多い時代に建設さ

れたものです。全国的な少子化が進む中、現在の学校の配置が適正かどうかということは、検討する必要があると考えています。

学校の統合により学校の数が減ると、高蔵寺ニュータウンから人が引っ越して出ていってしまう、引っ越しで人が増えることがないという見方もあるかもしれませんが、新しい学校を作ることによって、地域の魅力を高めて、他の地区にお住まいの方に住んでみたいと思ってもらえることができればよいと考えています。

【質問 7】（押沢台小学校区）

高蔵寺ニュータウンでは、市や地域の方などが協働して様々な活動が行われており、まだまだこの町はこれから発展していくのではないかと思います。令和 22 年度の児童生徒数推計には地域の活動の状況についても反映されているのか。

また、今回の取組について、子どもたちにも当事者として意見を聞いてもらいたい。

【事務局】

令和 22 年度の児童生徒数推計には、地域活動の盛り上がりなどによる人口増の影響は反映していません。

現状は統合するかどうかを決定していない状態で、多くの方から意見をいただいている段階です。仮に統合するとなった場合、当事者である子どもたちから「新しい学校をどう整備するか」などの意見を聞いたり、統合する学校の子どもたちの事前交流などにも必要があると考えています。

【質問 8】（押沢台小学校区）

学校のクラス数が 1 クラスしかないから統合すべきという話になっているが、そもそも 1 クラスの人数を減らすことは可能なのか。

【事務局】

1 学級の人数については国と県の基準で決まっています。現在、国では小学 1 年生から中学校 1 年生まで、県の基準では中学校 2 年生までが 1 クラス 35 人となっており、順番に拡大されてます。県では、来年度、中学校 3 年生まで 1 クラス 35 人になる予定です。市独自で 1 クラス 35 人の基準を変えることはできません。

【質問 9】（押沢台小学校区）

国や県の基準が変わって、1 クラスあたりの人数が少なくなった場合、統合の取組の方向性も変わる可能性があるのか。

【事務局】

少子化が進み人口減少が起きている中で、学校の適正規模や配置については喫緊の課題となっているため、国の基準の変更を待つことはできないと考えています。

【質問 10】（押沢台小学校区）

学校統合して1か所にまとめてしまうことがよいのか、人数が少なくなったとしても今の場所にあることによって、地域との関わりで部活動であったり、様々なコミュニティに所属できるということを天秤にかけてもよいのではないかと思う。

【事務局】

教育といっても幅広く、家庭の方針によって教育環境を選ぶこともできますし、子どもに様々な教育を受けさせることもできると思います。

保護者の方にも様々な考えがあり、多くの選択肢がある中で、市はより多くの方に最適な教育を考えていく必要があると考えています。

【質問 11】（東高森台小学校区）

資料に「標準的な規模を下回る学校」とあるがその定義はなにか。

【事務局】

資料1ページに「学校規模の区分」を掲載しています。小学校、中学校ともに12クラスから24クラスを「適正規模」としており、市としてはこのクラス数を適正と考えています。

【質問 12】（東高森台小学校区）

学校づくりを考える懇談会はいつ組織されるのか。スケジュールを教えてください。

【事務局】

高蔵寺ニュータウン地区の基本方針を策定した後に、懇談会を設置したいと考えています。皆様のご意見によって、今後の進め方が決まっていくので明確なことは言えないですが、年内をめどに設置していければと考えています。

【質問 13】（東高森台小学校区）

懇談会を年内に設置した場合に、構成員となる人には年度で役が変わる人もいるので、懇談会は年度末の3月31日までの活動となるのか。

【事務局】

懇談会の協議の内容によるので、年度内に協議が終了するかわかりません。構成員の中には年度で役が変わる方もいらっしゃると思いますので、その場合には引き続きお願いするかどうかを検討します。

【質問 14】（玉川小学校区）

これまでの意見交換会にほとんど参加した。最初は子どもの数が減っていく中、学校をどうしていくかということでスタートしたのが、回を重ねるごとにだんだん大規模的な統合の提案がでてきた。そのたびにいろいろな意見が出てきて、資料は

どんどん分厚くなるが内容はいつも同じで、いろんな意見があっても、反映されないものもある。統合の話をずっと聞かされて、私たちは何を基準に考えたらよいかわからない。統合するかしないかの話にどんどんもっていつている気がする。

例えば玉川小学校がなくなったら玉野台は限りなく人数が減っていくと思う。どのように地域を再生していくのかということ、ニュータウン創生課もあわせて、全体で考えないといけない。子どもの数が減ったから統合するばかりで、小規模でも魅力ある学校を作っていったらどうかということについては、何も具体的な提案がなされていない。統合ではない方向性は、今後何も示されないのか。懇談会が始まるとますます統合に向けて進んでいくと思う。

【事務局】

意見交換会での皆様からの質問・意見は会議録を作成し、ホームページに掲載しています。また、この取組についての情報紙を作成し、保護者や地域の方に意見交換会の状況など、学校の適正規模について検討していることについてご紹介しています。

資料が毎回同じというご指摘については、意見交換会に初めて参加される方にも、取組の状況をご理解いただけるように、繰り返しご説明しています。現状、統合するかどうかは決まっていませんので繰り返しの内容にはなりますが、市の考えをお示しして、様々な方からご意見をいただきたいと考えています。

また、懇談会は方針を決定する場ではありません。懇談会で議論された内容については、意見交換会を開催し、皆様にフィードバックしていきたいと考えています。

【質問 15】（押沢台小学校区）

学校統合について、これまでも地域の方と意見交換をしていますが、小学校6校統合は大変範囲が広いと思うので、中学校区ごとの小学校3校ずつで統合を行うなど、順番に進めることはできないのか。

【事務局】

資料 29 ページに高蔵寺ニュータウンを2つの地区に分けて考えていくとご提案しています。高森台中学校区と石尾台学校区の検討について記載していますが、これはあくまで6校を統合する案ではなく、方針1に記載のとおり、それぞれの地区で最適な学校のあり方を検討していくとしており、小学校6校を統合するとはしていません。

【質問 16】（玉川小学校区）

先ほどの質問で、1学級の人数は国と県の基準があるから市独自が設定するのは難しいとのことだが、市が非常勤又は常勤の教員を市費で雇って少人数教育を進めて、きめ細かな指導をする、または学級担任の負担を減らすという考えはあるか。

【事務局】

現在、市でも授業のできる講師、また学習の補助に入る講師を雇っているところですが、費用がかかってきます。現状、1クラスの人数を減らすことについては、教員のなり手不足の問題や予算的な部分で難しい状況です。

【質問 17】（東高森台小学校区）

第1回の意見交換会に参加したが、統合ありきで進めてきたのではという疑問からスタートした。小規模校のよいことについても意見を出しあわなくてはいけないと思うがそれがない。意見交換会での質問に対して、市の答えを示しながら、次の意見交換会に反映して資料を作成する必要がある。

高蔵寺ニュータウンのまちづくりについて考える場合、教育委員会だけで問題の解決はできない。いろいろな機関と協力することや一般市民の意見を聞いて進めていく必要があると思うがそれができていない。机上だけで考えて、児童生徒数推計値だけ羅列して、危ないと言っている。これでは懇談会を年度内にやるといっても何を協議するかわからなくなる。

市からは、いじめがあった時などに、クラス替えができることで救うことができるというような話があったがそれは違う。

また、魅力ある学校づくりは何か。地域をきちんと巻き込まないといけないと思う。

【事務局】

様々なご意見ありがとうございます。今後の進め方の参考にさせていただきたいと思います。

3 参加者どうしによる意見交換

1 グループ5人から7人で円になり、参加者どうしで自由に発言し、意見交換を行った。各グループに職員が入り、進行・発表を行った。

参加者：23人（高森台小学校区2人、中央台小学校区5人、東高森台小学校区4人、玉川小学校区5人、石尾台小学校区2人、押沢台小学校区5人）

テーマと主な意見は次のとおり

テーマ 学校統合について期待すること・心配なこと

【小規模校について】

- ・小規模校には年上の子どもが年下の子どもをよく見てくれるなどの良さがある。ただ、先生の人数や友達がたくさんいる環境、子どもたちの社会性などを考えると複数クラスがある学校規模に向けて取組を進めることが必要であると思う。

- ・小規模校であると交友関係などが狭く、子どもたちのグループ分けなどでよくトラブルが起きる。そのためクラス替えができる規模にすることは賛成であるが、小学校6校統合となると、通学の面で心配が残る。
- ・小規模校のメリットとして、トラブルをきっかけに保護者どうしの仲が深まることや先生が子どもたちや保護者のことをしっかりと覚えてくれるなどがある。
- ・1学級35人の基準が本当に良いのか。教育に関することをたくさん議論して、小規模校の良さであるきめ細かな教育ができるように進めていくべきではないか。
- ・小規模校であると社会性が身につかないことやいじめ、不登校が多いといったことの根拠はあるのか。1学年1クラスの学校にも教育的メリットはあると思う。
- ・のどかな雰囲気の中で子どもを育てたい。統合することで子どもたちへの負担が増えると思う。

【通学について】

- ・通学が心配なので、小学校は今のままで中学校だけ統合してはどうか。
- ・通学について、バスの導入など市が責任をもって決定し、市民に安心につながる説明をすれば良いと思う。
- ・バスを導入する場合、集団登校に遅れたり、バスに乗り遅れたりするなど心配な点がある。
- ・統合してバス通学を導入している他市の事例を意見交換会の中で説明することによって安心につながると思う。

【取組の進め方について】

- ・統合する前に子どもたちからも意見を聞いてほしい。
- ・学校教育の話だけで統合を進めているが、例えば市全体の人口動向や学校運営についての予算なども資料として提示してほしい。
- ・より具体的な議論をしないと、統合に賛成か反対かは決められない。
- ・反対している方も1つの課題が解決したら賛成という方もいると思うので、具体的な提案を市からすべきである。
- ・学校統合の話だけが進み、まちづくりの話が進んでいないことはいけないと思う。まちづくりについてもあわせて考えてほしい。
- ・決定の方法や最終的に誰が決めるのかなどを市民の方に提示することで、不安が少なくなるのではないかな。

【その他】

- ・学校に診療所の機能を持った施設を併設するのはどうか。保護者や地域の方は避難所や医療機関の心配をしていると思う。仮に子どもが学校生活の中でけがや病気をしたときに診療所などがあるとすぐに対応できる。
- ・中学校の統合は賛成だが、小学校は残した方が良いと思う。運動会や修学旅行も他校と合同で行えばよいのではないかな。
- ・ハード面の統合の前に、例えばサッカーチームを統合予定校どうしで編成するなど、子どもたちどうしの交流がまず必要であると思う。
- ・統合によって通学範囲が広がると、そこに住む人たちが他の地域に流出してしまうのではないかな。
- ・小学校の跡地に球技ができる公園をたくさんつくってほしい。
- ・いろいろな子どもと接することは社会性の育成につながる。
- ・市の財政などを考えると、今の学校規模を今後維持していくことは厳しいと思う。
- ・子どもにとってクラス替えは大事である。

【教育部長総括】

多くのキーワードが出たと思います。学校だけの話ではなくて、特にまちづくりについて多くのご意見をいただきました。当然、学校を考える上では、この地区の公共施設をどうするのか、子どもの家などの子どもを預かる機能や避難所、地域の皆様が集まるような場所について整理しながら考えていく必要があると思います。

学校統合が非常に難しい課題であることは、どの方も感じており、ここにいる人が満場一致で、納得することは決してないと思います。ただ、現実的な課題を皆様と共有しながら、良い方向に私たち大人が考えていくことは、将来の子どもたちのための責務であり、そこは共通の思いであると思います。決して、教育委員会だから子どもたちや教育のことしか考えてないというわけではなく、私たちの子どもたちをどんな教育環境で育てていくのが良いのかということは、教育委員会でも考えていく必要があります。様々な課題が出てくるとは思いますが、やはり私たちの子どもたちをどう育てていくかというところに焦点を当て、今後の学校がどうあるべきかを押さえておく必要があると思います。様々な視点からアプローチしていくと、おそらくまとまるものもまとまらないと思います。それだけ学校という存在が地域にとって密着しており、大きな存在となっているので、じっくり考えることも必要であると思います。

また、学校の規模が小さいと少人数教育が充実するのではないかなという意見も当然あります。ご意見のとおり、1人の先生が見る子どもたちの数が減るため、手厚

い気配りや教育は行われることは当然あると思います。ただ、小さい規模の学校と少人数教育ということは切り分けて考える必要があると思います。一定の子どもたちの集団の規模が確保された中での手厚い少人数教育というものが本来あるべきだと思います。子どもたちが1人でも多くの友達と出会い、1人でも多くの先生方にいろいろな刺激を受けることが大事であると思います。楽しいこともあれば、悲しいこともあったり喧嘩したりすることもあります。子どもたちがそういった環境の中で育つことは大事なことであると思います。また、1学年に1学級しかない学校では、子どもたちは逃げ場がありません。これはおそらく、大人でも一緒だと思います。大人は逃げ場所をある程度、自ら見つけることができますが、子どもは学校の中に縛られてしまいますので、逃げ場がないということも現実であると思います。クラス替えができて、子どもたちが時には人間関係をリセットしたり、多くの刺激を受けたりすることが必要であると思いますので、そういった視点も共有しながら議論を進めていただければと思います。

不安なこと、心配なことは当然たくさんあると思いますが、私たちの子どもたちを育てる学校をどう作っていくかを考える良い機会であると思います。決して市としては統合することを前提にしているわけではなく、今後、懇談会という形で議論を深めていく中でも、統合ありきではありません。場合によっては統合しないことも当然選択肢としてはありますので、その点も含めて皆様とじっくり議論していきたいと思います。

高蔵寺ニュータウン地区の基本方針について、藤山台中学校区と岩成台中学校区、高森台中学校区と石尾台中学校区の2つに分けるという考え方をお示しさせていただきました。今後、その枠組みの中で学校のあり方をどうするかということについて議論を深めていきたいと思いますので、ご理解いただけたらと思います。本日はありがとうございました。

4 その他

【事務局】

- ・今後の進め方について、これまでの意見交換会などを踏まえ、高蔵寺ニュータウン地区全体での基本方針の策定を進めていく。基本方針の案がまとまったら、パブリックコメントを実施する。パブリックコメントは、市が政策などを決定する際に広く市民に意見を募るもので、インターネットの活用や公共施設での閲覧などで実施する。
- ・基本方針の策定後は、高森台・石尾台中学校区の保護者や地域の代表の方、学校関係者などで構成する「学校づくりを考える懇談会」を組織し、具体的な検討を進めたいと考えている。

- ・学校統合の取組の情報については、情報紙「学校のこれから通信」を発行している。
「学校のこれから通信」は保護者の方へは学校情報配信アプリの Home&School で、地域の皆様へは回覧板でお知らせする。

5 閉会

午後 0 時 20 分 閉会